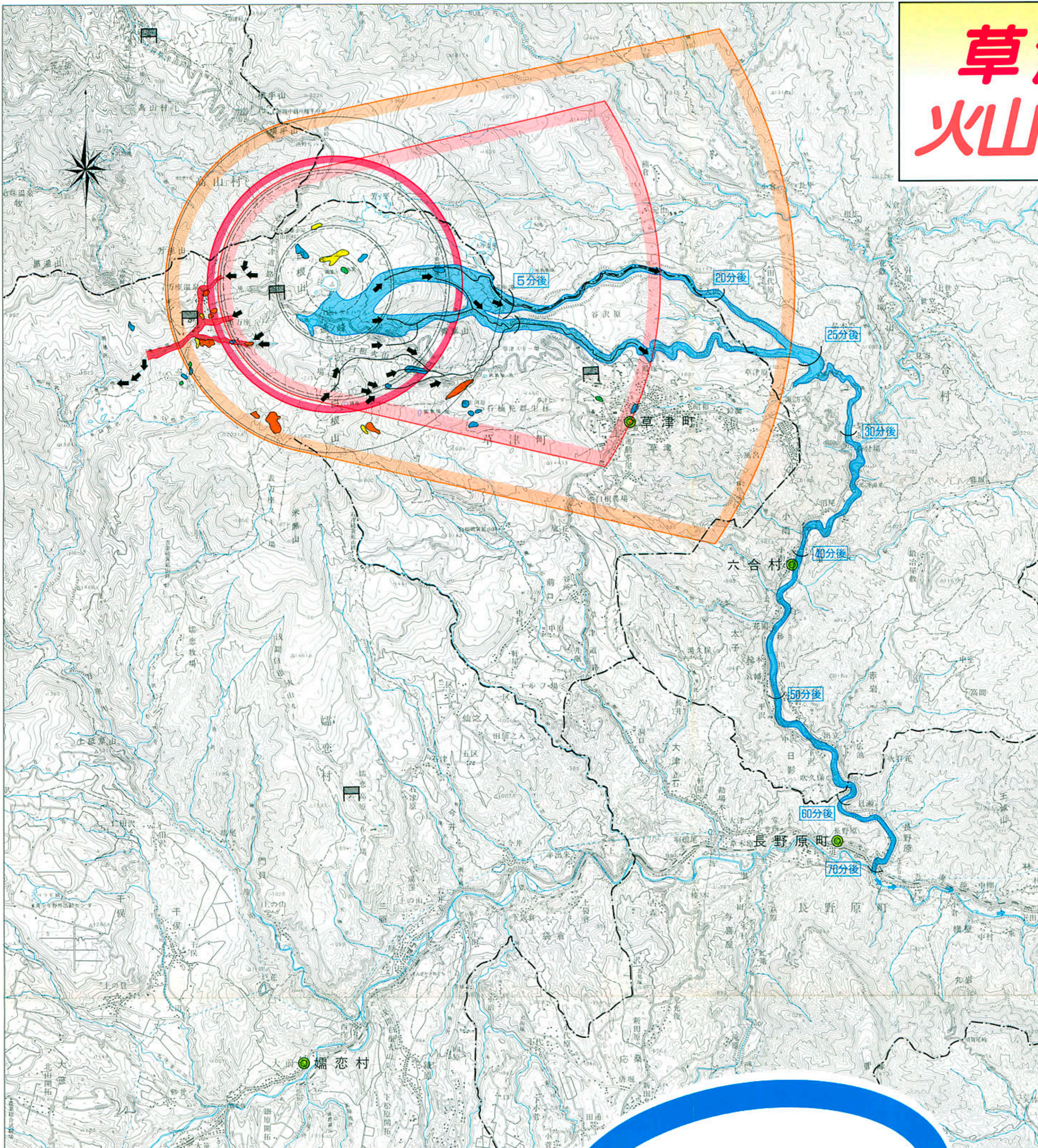


草津白根山 火山防災マップ



凡 例

50年に1度程度発生する恐れのある災害の危険区域

- 直径1mくらいの噴石が落下する恐れのある区域
- 火山灰が5cm以上降り積もる恐れのある区域
- 火山灰が2cm以上降り積もる恐れのある区域

100年に1度程度発生する恐れのある災害の危険区域

- 土石流が流下する恐れのある区域*
- 土石流が流下する方向

200年に1度程度発生する恐れのある災害の危険区域

- 泥流が流下する恐れのある区域*
- 25分後 泥流到達時間*
- 泥流入入に伴う洪水が流下する方向
- * シミュレーションによる

現在の火山活動状況の下での火山ガスの危険区域

- きわめて危険
- 危険
- 要注意
- においを感じる程度

● 町村役場
/ 登山規制区域
/ 交通規制区域
□ 交通規制箇所
--- 町村境界

【作成の趣旨】

このマップは、将来、草津白根山で噴火が起こった場合の被災範囲を予測したものです。明治時代以降記録されている噴火はすべて白根山の湯釜およびその周辺からの噴火ですが、過去数千年前には本白根山からも繰り返し噴火をしてきました。また、近年の噴火の規模の数倍の噴火も何度か発生してきました。

今回マップを作成した草津白根山麓の4町村では、住民や観光客の安全を確保するために、いろいろな対策を講じていますが、住民のみならず知っておいていただきたい情報をこのマップに示しました。ご家庭で、壁など見やすいところには防災に心がけましょう。

覚えておこう！

もし草津白根山が噴火したら……

噴石の落下
直径10cm～1mくらいの石が火口から3kmくらいまで飛ぶこともあります。火口に近いところでは、飛んできた石が当たって、建物や車が破損したり、死傷者が出たりします。

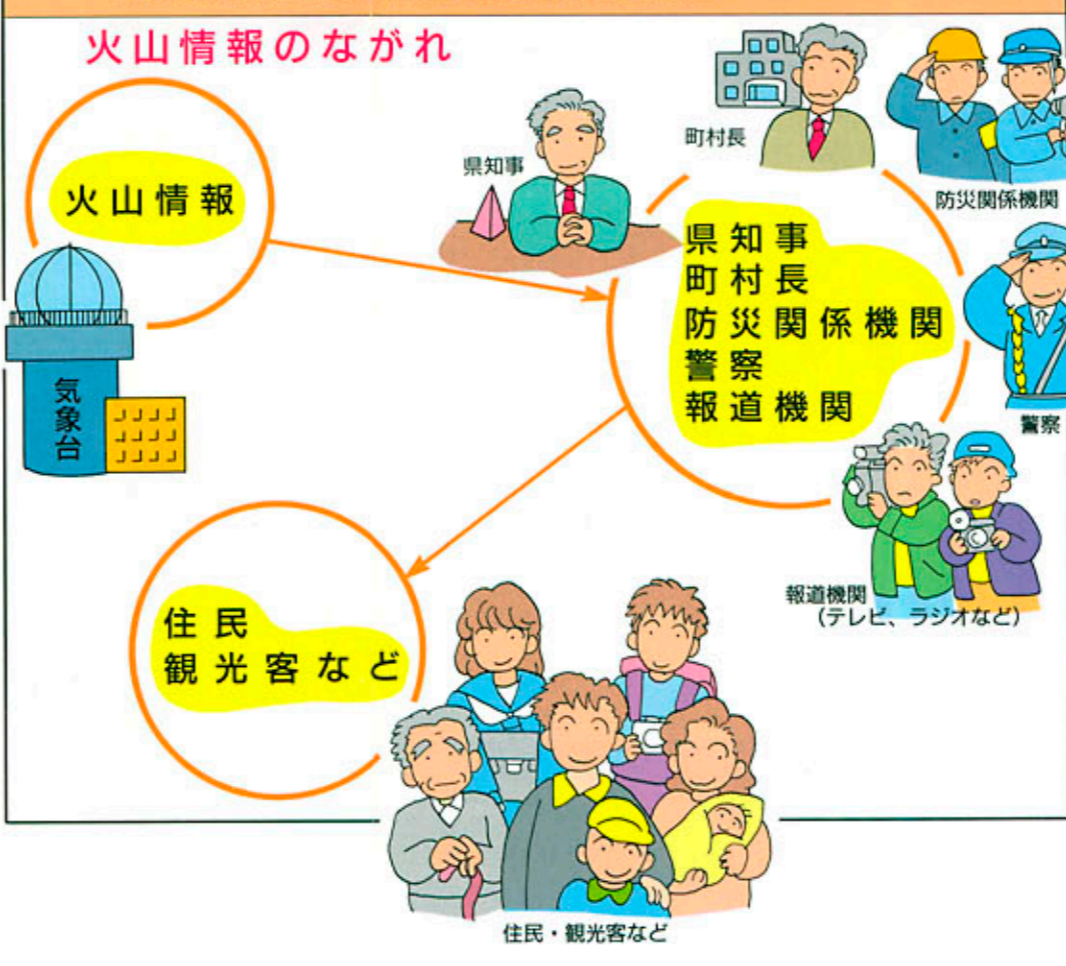
火山灰・軽石の降下
火山灰や軽石は、上空の風で運ばれます。噴火の規模や風の状況によって降下域や降り積もる厚さなどが変わります。数cmの降灰でも農作物に被害が出ます。また、大量に降り積もると木造家屋が壊れます。



火山情報について

緊急火山情報	生命、身体にかかわる火山活動が発生した場合に随時発表します。
臨時火山情報	火山活動に異常が発生し、注意が必要となきに随時発表します。
火山観測情報	緊急火山情報、臨時火山情報を補うなど火山活動の状況を定期的または臨時にきめ細かく発表します。
定期火山情報	草津白根山などの常時観測を行っている活動的な火山について、火山活動の状況を定期的に発表します。

* 火山情報は前橋地方気象台から発表されます。



【企画・問い合わせ先】

草津町役場総務課 0279-88-3131 嬬恋村役場総務課 0279-96-0511
 長野原町役場総務課 0279-82-2244 六合村役場総務課 0279-95-3111

噴火に対する心構え

—— 噴火災害に備えて ——

火山の特徴や用語について知っておきましょう。

家族で避難場所について話し合っておきましょう。

非常持ち出し品の準備をしましょう。(チェックリスト)

- 非常持ち出し品袋(リュック)
- ヘルメット(防災頭巾) ■ 携帯電話
- ラジオ ■ 懐中電灯 ■ 食糧 ■ 飲料水
- 防寒具 ■ 替え下着 ■ 雨具 ■ 手袋
- 古り紙 ■ タオル ■ お金、貴重品 ■ 救急医療品
- マスク ■ ゴーグル ■ 草津白根山火山防災マップ

—— 噴火が始まったら ——

デマに惑わされないようにしましょう。

テレビやラジオ、町村役場などの行政機関の広報などを聞いて正しい情報を得ましょう。

町村長から避難勧告などの指示があったらそれに従いましょう。

お年寄り、赤ちゃん、体が不自由な人の避難を助けましょう。

登山規制・交通規制について

登山規制
前橋地方気象台から「臨時火山情報」の通報を受けたときなど、特に必要があるときに、草津白根山防災協議会会長により登山の規制が行われます。

規制内容	規制区域
常時立入禁止	火口周辺
第1次規制	火口より半径 500m 以内
第2次規制	火口より半径 1km 以内
第3次規制	火口より半径 2km 以内

交通規制
火山噴火(爆発)あるいは異常現象に伴う災害が発生し、またはその恐れがある場合、交通規制が行われます。

規制内容	規制区域	規制箇所
第2次規制	火口より半径 1km 以内	万座温泉側 草津温泉側 長野県側
第3次規制	火口より半径 2km 以内	国道292号 国道292号 旧横手料金所跡
第4次規制	火口より半径 3km 以内	黒の湯

火山ガスに注意しよう

火山活動が比較的静かなときでも、噴気孔や温泉・火口湖などから毒性の強い硫化水素ガスが発生しています。硫化水素ガスは空気より重いので、くぼ地や地形的に低いところにたまりやすくなります。天候がくもり、雨の場合や風がない時は、火山ガスが広がりやすく濃度の高いガスがたまりやすくなります。また、冬には積雪の下でガス濃度が高まることもあります。濃度の高い硫化水素ガスの中に入ると、中毒死することもあります。